

4/21 2024
(日)

プロムナードコンサート No.407

PROMENADE CONCERT

会場：サントリーホール

指揮・ヴァイオリン／

ペッカ・クーシスト

ヴィヴァルディ：
ヴァイオリン協奏曲集《四季》
op.8 no.1-4 (約40分)

ベートーヴェン：
交響曲第7番 イ長調 op.92 (約36分)

ホールでの
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、フィンランド出身で現代を代表するヴァイオリニスト、指揮者、作曲家のペッカ・クーシストが登場します。朗らかなお人柄、語るように自由自在に演奏するヴァイオリンで大人気のクーシスト。ヴィヴァルディの《四季》ではヴァイオリン独奏をします。そしてベートーヴェンの交響曲第7番では、指揮者としての腕前を日本では初披露します。

ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲《四季》 op.8 no.1-4

最初はイタリアの作曲家、アントニオ・ヴィヴァルディ(1678~1741)が1725年頃に作曲した《四季》です。日本は季節の変化が豊かに感じられますね。ヴィヴァルディの国イタリアも、日本と同じように四季折々の景色が広がります。ヴィヴァルディは季節に応じた自然や人々や生き物たちの様子を音楽で生き生きと表現しました。楽譜には「ソネット」と呼ばれる短い詩も付けられています。詩と音楽が描く「四季」のシーンを想像しながらお楽しみください。

○「春」

第1楽章：春が来ました。小鳥たちが幸せそうに歌う様子をヴァイオリンが表現します。そよそよと小川に西風がささやきます。やがて雷が鳴り、突然の春の嵐がやってきます。嵐が去ると、ふたたび小鳥が歌い出します。

第2楽章：牧草地で羊飼いがまったりとくつろぐ様子の音楽です。

第3楽章：お祭りの情景です。羊飼いや妖精も踊り出します。ヴィオラ・チェロ・コントラバスが奏でる長い音は、バグパイプという楽器の響きを表現しています。

○「夏」

第1楽章：灼熱の太陽のもと、動物たちはもうろうとしています。素早いパッセージでカッコウやキジバトが鳴き始めます。急に北風が吹き始めます。

第2楽章：ハエがブンブンと羽音を立てる様子をヴァイオリンが表現します。時おり、激しい雷鳴が聞こえてきます。

第3楽章：ついに嵐がやってきました。ヒョウが降って穀物を荒らしてしまいます。

○「秋」

第1楽章：農民たちが豊作を祝い歌っています。お酒を飲み過ぎてよっぱらい、眠くなります。

第2楽章：農民たちは眠りにつき、祭りは終わりです。

第3楽章：朝になり、狩人たちが狩に出かけ、猟犬が獲物を捕らえます。

○「冬」

第1楽章：凍える寒さの中、人々が足早に歩いていきます。ヴァイオリンがカタカタと寒さに震える様子を表現します。

第2楽章：大雪が降るなか、家の中は暖炉でポカポカです。

第3楽章：氷の上をゆっくりと転ばないように歩きます。北風の音も冬の楽しみです。

チェンバロの紹介

「ヴィヴァルディの時代に活躍した楽器～チェンバロ」

『四季』では、“通奏低音”と呼ばれるパートを演奏しています。

コード（和音）を奏で、音楽の土台を支えます。

鍵盤の奥についている爪で、弦をはじいて音を出す楽器です。



ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 op.92

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)は9つの交響曲を作りました。「英雄」(第3番)、「運命」(第5番)、「田園」(第6番)、「合唱付き」(第9番)など、題名やニックネームの付いたものがとくに有名です。第7番は番号しか付いていませんが、とても人気のある曲です。ハジけるように明るい曲想や、ノリノリで進んでいくリズムが大きな魅力となっています。

交響曲第7番はベートーヴェンが41歳の時(1812年)に完成しました。ベートーヴェンはオーストリアのウィーンに暮らしていましたが、街は一時期、フランスのナポレオン軍に攻め込まれて占領された時期がありました。翌1813年、英国軍がフランス軍に勝利しました。そのニュースに、ウィーンの人々も大喜び。戦争で傷を追った兵士のためのチャリティーコンサートが開かれました。その時に初めてこの交響曲が披露され、エネルギーに満ちた音楽にウィーンの人々はますます興奮し、自ら指揮をしたベートーヴェンに大喝采が送られました。

第1楽章は上行する音階が印象的な、長い序奏で始まります。フルートとオーボエがターンタタン、ターンタタンという特徴的なリズムのモチーフを奏でるところからがようやく主要部です。生き生きとしたリズムは楽章全体に登場します。**第2楽章**は悲しげな行進曲風の音楽となります。ターン・タ・タ・ターンターンという重々しいリズムが充満していきます。**第3楽章**は急速なテンポで進みます。中間部にはオーストリアの巡礼歌に基づく牧歌的なメロディーが現れます。**第4楽章**はタンタカタン！という鮮烈なリズムのモチーフで始まります。後年、ワーグナーが「舞踏の聖化」と呼んだ熱狂的なフィナーレとなります。

文／飯田有抄 (クラシック音楽ファシリテーター)

PROFILE



©Bard Gundersen

指揮／ヴァイオリン

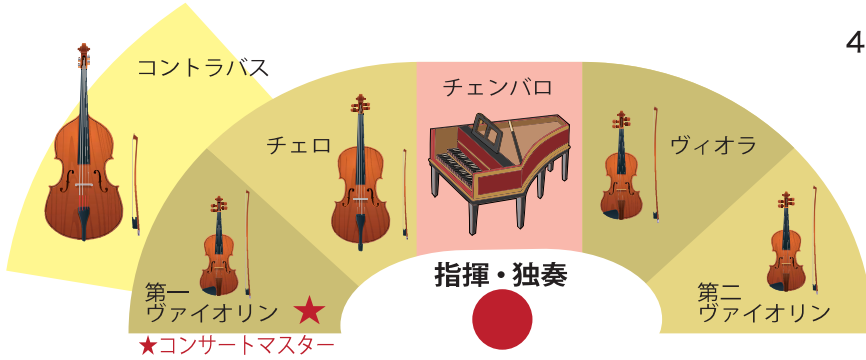
ペッカ・クーシスト Pekka KUUSISTO, conductor & Violin

ヴァイオリニスト・指揮者・作曲家として、自由な芸術性、レパートリーへの新鮮なアプローチで知られている。ノルウェー室内管弦楽団芸術監督、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者および共同芸術監督などを務めている。近年は、ヴァイオリニストとしてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団など、指揮者としてはベルリン・ドイツ交響楽団、パリ室内管弦楽団などと共演。指揮者としてもヴァイオリニストとしてもCDを多数リリースしている。楽器は、匿名のパトロンから貸与されたアントニオ・ストラディヴァリ黄金期(1709年頃)の“スコッタ”を使用。都響とは2023年1月以来2度目の共演となり、指揮者として日本デビューを果たす。

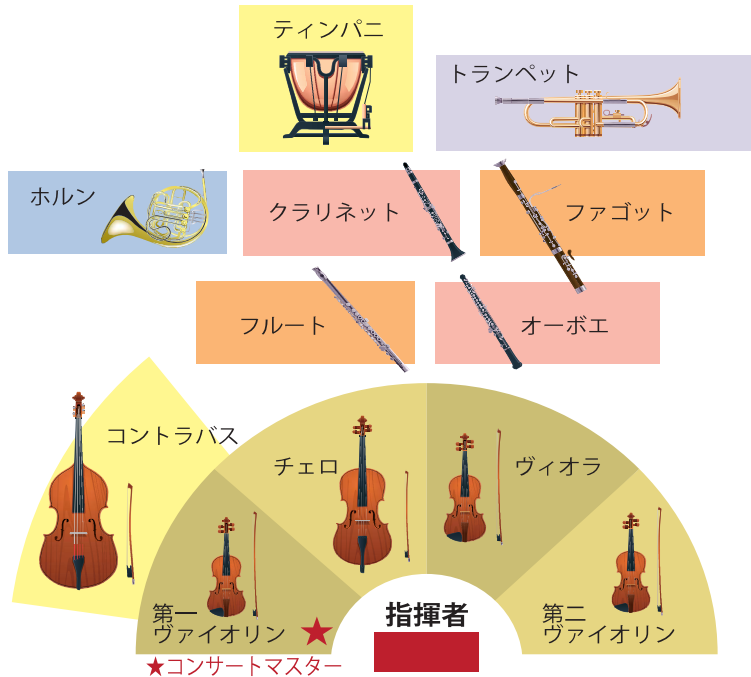
【オーケストラ配置図】

4/21 プロムナードコンサート No.407

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認してください。



◆ヴィヴァルディ：
ヴァイオリン協奏曲《四季》



◆ベートーヴェン：
交響曲第7番

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

東京文化会館（上野）を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmso.or.jp/>



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています（ご支援企業については月刊都響をご覧ください）。